

「組織マネジメント」を活用した「校内研究」について考える

令和5年度第1回管内地域授業改善協議会からの学び

【日田教育事務所】

【要旨】

要旨 「第1回日田管内地域授業改善協議会」

◆参加者

○小・中学校 指導教諭、研究主任、管理職等 ○管内市町教育委員会関係者 ○教育事務所 計49名)

◆大雨のため、「集合方式」(7/4日)から、「DVD視聴<7/27~>・アンケート<~9/29>・HPによる全体共有」に変更実施

◆目的

管内の各小・中学校の指導教諭、研究主任等を対象に、組織マネジメントを活かした校内研究についての説明・協議を行うことにより、各学校における組織的な授業改善の推進に資する。

【受講者アンケートの回答より】

研究主任としての役割・再確認

■研究主任としてリーダーシップを発揮し、校内研究を進めることは大きなプレッシャーだが、それが責務である。

■校内研究テーマだけでなく、学校の教育目標を意識して、そこからずれないように進めたい。

■学校において最も重要な授業について、研究主任の役割や責任の大きさを実感。自分自身、授業についてさらに学びを重ねたい。

「自立した学習者」と単元構想

■教育活動の最終ゴールは、「自立した学習者」を育てること。この大きなゴールイメージを全教職員で共有したうえで、校内研究を進めていきたい。

■「算数など教材単元が教え込みにならないように」「生活科など経験単元が活動ありきにならないように」ということが印象的だった。

■児童生徒の実態や課題を丁寧に把握し、教職員間で共有することをあらためて大事にしたい。

もっとチャレンジ！

■組織的な取組において、各学校で失敗を恐れず、みんなで知恵を出し合っ

て取り組もうとする雰囲気や姿勢を醸成していきたい。

■児童生徒と同じく学校もチャレンジでありたいと思った。

組織マネジメントの大切さ

■授業改善や校内研究の取組は、「個人の頑張り」ではなく、「組織マネジメント」を通して充実させることがわかった。

■研究主任として、管理職に情報を提供した上で助言を求めたり、指導教諭と連携したりして、校内研を推進することの大切さを確認できた。一人で抱え込まないこと。

■小規模校（単学級）であるため、教師個人の授業力やカリ・マネ力に頼りがちだが、目指す子ども像を明確にすることで、個人の個性を活かしつつ、組織的な取組につなげたい。

■学校規模に応じて、組織づくりも異なるとよいことがわかった。教職員が少人数かつ幅広の年齢層であると、マネジメントの難しさがあるが、一人一人の役割を明確にしてつないでいきたい。

■メンター方式を取り入れた校内研究は、組織マネジメントの一環である。さらに質を高めたい。

■管理職として主要主任・教職員それぞれの意識向上を図り力量向上につなげるためにも、組織をどう作り、どう動かすか、あらためて考えることができた。

★第2回目は、「単元構想力の向上」と「校内研究」について深掘りする予定です。よろしくお願いします。